

ふるさと歴史アラカルト

岩国と『花燃ゆ』ゆかりの人物12

西郷隆盛
(1827~1877年)

今回は薩摩藩士で、明治維新に大きな功績のあった西郷隆盛を紹介します。西郷は文政10(1827)年、薩摩藩士の家に生まれ、下級武士の出身ながら薩摩藩主島津斉彬に抜擢されて頭角を現します。その後流罪により失脚した時期もありますが、元治元(1864)年頃から薩摩藩の中心的存在となり、薩長同盟、大政奉還、戊辰戦争と明治維新における大きな役割を果たしました。維新後も明治新政府の一員として活動するものの、同郷の大久保利通らと対立し、明治10(1877)年、私学校鹿児島県(の生徒らとともに)挙兵した西南戦争で敗れて自刃しています。

西郷が岩国と深い関わりを持つのは、元治元年7月19日の禁門の変で長州藩が御所へ発砲したことを理由に、江戸幕府が長州藩を朝廷に背く敵とみなし、第一次長州出兵が始まったことによります。西郷は長州藩側の窓口であった岩国藩主吉川経幹とともに、禁門の変の首謀者である三家老(福原越後、国

司信濃、益田右衛門介)の切腹などを条件に戦争の回避を進めていきました。大久保へ宛てた書状の中で「吉川家、徳山藩あたりを引き離して、今回の騒動の処置を長州人にさせる道もある」「吉川家または末家などをごとく死地に追い込んでしまつては、打破ることができてもこちらも大きく怪我をする」と述べていることから、西郷が戦争回避を考えた背景には、長州藩が起こした問題を長州藩の中で解決させる方が、結果的に国内の被害が少ないと考えていたことがあるようです。同年11月4日、西郷は岩国を訪れ、当初の長州藩への攻撃期日である11月18日が迫る中、三家老の処分を早く行うよう催促しています。これを受けて、岩国藩は長州藩へ処分の実施を要求し、11月11日に徳山で国司と益田が、12日に岩国の龍護寺(現清泰院)で福原が切腹しました。西郷はその後、11月16日から国泰寺(広島市)で経幹が幕府の尋問を受けた際にも協力をしています。



◀『西郷隆盛書状』

元治元(1864)年11月4日に岩国を訪れた後、吉川経幹の家臣へ宛てたもの。(吉川史料館蔵)

いわくにちようこかん 岩国徴古館

昭和20年に旧岩国藩主吉川家によって建てられ、その後岩国市に移管された市立の博物館

住所：横山二丁目7-19 ☎0452
休館日：月曜(祝日の場合はその翌日)

岩国市 人口・世帯

人口 140,280 人【前月比 - 43人】 男性 66,454 人 女性 73,826 人

世帯 66,455 世帯【前月比 + 2世帯】 ※外国人人口を含む(平成27年9月1日現在)

交通事故発生件数 8月分事故件数 44件(345件) 死者数 1人(2人) 傷者数 48人(392人)

※高速道路発生分を除く

※()内は平成27年累計

広報テレホン

休日在宅医療機関、イベント情報などをお知らせしています。テレホンサービス ☎231234

目の不自由な人へ

「広報いわくに」のカセットテープをお貸しします。音声読み上げのためのテキスト版を、ホームページに掲載しています。

お問い合わせはお気軽に、秘書広報課広報班へ ☎295016 FAX213337